



## 『アメリカ病院原価計算』

足立 俊輔 著  
同文館出版株式会社  
2019年9月30日刊  
A5判・326頁

近年、少子高齢化の進行、医療技術の進歩、財政負担の増大などを背景として、多くの先進諸国において、医療の質と医療サービスの提供に要するコストとのバランスを、如何に適正に図るかが喫緊の課題となっている。米国においては、「国民皆保険」を原則とする我が国とは異なり、保険会社と病院をセットにした民間医療保険会社が、保険者として病院経営に強く影響力をもつようになっており、病院経営上、医療サービスの質とコストのバランスが、より強調される背景となっている。我が国においても、例えば、特定機能病院等を対象にした入院医療費に対する診断群分類別の包括支払制度(DPC)が導入され、医療費の適正化を目的とした制度改革が段階的に進められている。

本書においては、このような保険者機能の強化を背景とした米国の病院原価計算の発展を、計算原理の精緻化の側面と計算合理性の側面から整理して、品質管理とコスト低減のバランスを考慮する価値重視の病院経営を支援する時間主導型の病院原価計算の有用性を明らかにすることを目的としている。そこで、本書では、第I部において保険者機能強化による病院原価計算の計算原理の精緻化、第II部において価値重視の病院経営と時間主導型原価計算の関係性を分析している。これらについて、米国を中心とした病院原価計算と病院経営に関する文献調査を中心として詳細な検討が行われている。

具体的には、第I部においては、米国で保険者機能が強化されるなかで、病院原価計算の計算が精緻化されてきたプロセスを検討している。このなかでは、診療行為別原価計算の手法として、特に活動基準原価計算(ABC)の意義と問題点が分析されている。

第II部においては、保険者機能の強化により原価管理が強調され、それが医療問題にまで発展している米国の病院経営において、「価値」概念に基づいた経営(価値重視の病院経営)により品質管理と原価管理のバランスの取り方を模索している背景を明らかにし、価値重視の病院経営と時間主導型病院原価計算の関係性について検討している。このなかでは、活動基準原価計算(ABC)の問題点を克服すべく、価値重視の病院経営との関連において、時間主導型ABC(TDABC)の、アウトプット指標等の非財務情報との統合的な導入の意義が分析されている。

終章においては、以上の点をまとめるとともに、医療資源投入量を適切に評価する病院原価計算が提示するコストを基礎とした医療・社会保障改革に資するべく、実際の病院での検証や価値重視の病院経営の体系化を裏付けるデータを提示することを今後の課題として提

唱している。

このように、本書は、米国における保険者機能の強化を背景とする病院原価計算の精緻化と「価値」概念の導入との関係性における病院原価計算の合理化の過程を、主に米国の文献を中心に検討したものとなっている。我が国においても、診療報酬の改定や医療供給体制の改革を伴う医療・社会保障改革のもとで、各医療機関は業務プロセスの最適化と戦略的意思決定に資するデータに基づいて内部プロセスを改善するため病院原価計算に関して一定の合理化を迫られており、本書の内容は、学術的な貢献にとどまらず、病院原価計算システムを構築しようとしている医療機関や当該システムの導入支援を行う公認会計士やコンサルタント等にとっても、実務的に貢献するものであるといえる。

以上のことから、協会学術賞－MCS賞に値するものとして選定した。

---

## 著者の略歴

足立 俊輔（あだち しゅんすけ）

2005年 九州大学経済学部経済経営学科卒業

2011年 九州大学大学院経済学府博士後期課程単位取得退学  
下関市立大学経済学部専任講師

2013年 九州大学博士（経済学）

2014年 下関市立大学経済学部准教授 現在に至る

## [主な著書]

- アメリカ病院原価計算（単著）
- 新版ベーシック管理会計（共著）
- ベーシック原価計算（共著）